

学位論文審査の結果の要旨

| | |
|------------|--|
| 1. 申請者氏名 | 福谷 泰斗 |
| 2. 審査委員 | 主査：（鳴門教育大学特命教授） 皆川 直凡 副主査：（鳴門教育大学教授） 池田 誠喜 委員：（鳴門教育大学教授） 久我 直人 委員：（鳴門教育大学教授） 田村 隆宏 委員：（岡山大学教授） 寺澤 孝文 |
| 3. 論文題目 | 中学校社会科における自律的な学習者の育成に関する実践的研究 - 自己調整学習を促進する動機づけと学習方略の観点からの検討- |
| 4. 審査結果の要旨 | <p>論文提出による学位申請者 福谷 泰斗 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：：令和8年1月14日（水） 17時10分～17時40分 場所：リモート会議による審査（主催：鳴門教育大学 皆川研究室）</p> <p>1) 学位論文の構成と概要</p> <p>(1) 論文の構成</p> <p>第1章 自己調整学習を支える社会科の教育実践の現状と課題 第2章 自己調整学習の理論に基づく振り返り活動が中学生の学習動機づけに与える影響 第3章 中学校社会科における学習方略尺度の開発及び方略の利用促進を目的とした授業デザインの効果についての検討 第4章 中学生の社会科学習における動機づけを高める学習方略の検討 第5章 中学校社会科における1人1台端末を活用した協働的な学習と学習動機づけの関連 第6章 社会科における自己調整学習研究の今後に向けて</p> <p>引用文献 資料</p> <p>(2) 論文の概要</p> <p>本論文は、中学校社会科教育において、生徒が「どのように学習すればよいかわからない」「学習方法が確立されず学習意欲が高まらない」といった課題を克服し、自律的に学習へ取り組む学習者を育成することを目的として、自己調整学習の理論的枠組みを援用した実践的研究を行ったものである。本研究では、自己調整学習を「学習者が動機づけ、行動、メタ認知の各側面において、自らの学習過程に能動的に関与していること」と定義し、社会科教育における自己調整学習の促進可能性について、学習動機づけおよび学習方略の観点から多角的に検討している。各章の概要は、以下の通りである。</p> |

第1章では、本研究の方向性を示すことを目的として、社会科学学習における中学生の課題を明らかにし、その克服に関わる概念としての自己調整学習の理論的枠組みとその関連領域における先行研究を精査した。まず自己調整学習を支える概念を整理し、動機づけの質と適切な学習方略の在り方に着目した。次に動機づけに関する自己決定理論の下位理論であり、動機づけを自律性の程度による連続体として捉える有機的統合理論と学習効果を高めることを意図して行う心的操作としての学習方略の概念について検討した。これらの視点から、ポートフォリオやパフォーマンス課題を用いた社会科の教育実践について検討し、学習内容と自己調整学習を支える動機づけの質の向上や適切な学習方略の使用の促進を関連づけた研究の必要性を明らかにした。

第2章では、自己調整学習の理論に基づいて、まとめと学習活動の振り返りを記録するポートフォリオを中学校社会科の授業の中に組み込み、その成果を自己決定理論と関連づけて検討することを目的とした研究を行った。まず、社会科の学習動機づけ尺度を作成し、因子分析を経て標準化された尺度として完成させた。次に、歴史的分野において学習者が既有知識と学習内容を関連づけながら記述するポートフォリオを導入し、その効果について検証した。その結果、内的調整と同一化的調整という自律的な動機づけが向上し、他律的な動機づけである取り入れ的調整が抑制されるという成果が得られた。

第3章では、中学校社会科（歴史的分野）において、自律的学習に有用な学習方略の使用を促進する授業を実践し、その効果を検証した。まず、自律的学習に有用な社会科学学習方略を測定する尺度として、認知的方略とメタ認知的方略から成る尺度を開発した。因子分析の結果、認知方略として体制化方略と対話方略、メタ認知方略としてモニタリング方略と計画方略が見出され、尺度としての信頼性と妥当性が確認された。次に、学習方略の使用を促す社会科学学習プログラムを開発し、その効果を検討した結果、体制化方略、対話方略、モニタリング方略の向上に効果があることが示された。

第4章では、中学生を対象として社会科の学習方略が社会科学学習への動機づけに及ぼす影響について検討した。学習動機づけの下位尺度として、内的調整、同一化的調整、取り入れ的調整、外的調整が含まれた。学習方略の下位尺度として、体制化方略、対話方略、モニタリング方略、計画方略が含まれた。重回帰分析を行った結果、体制化方略と対話方略が内的調整と同一化的調整に正の影響を及ぼすことが明らかとなった。これらの結果から、社会科における自律的な学習動機づけの向上には、体制化方略や対話方略が特に有効であるという示唆が得られた。

第5章では、1人1台端末の活用と協働的な学習を取り入れた中学校社会科（公民的分野）の授業実践を行い、その成果を自己決定理論の下位理論である基本的心理欲求理論に基づいて検討した。まず、学習動機づけと、基本的心理欲求の関連を検討し、自律的動機づけとの間に有意な相関を見いだした。次に、1人1台端末を活用した協働的な学習を取り入れた授業実践を行った。その結果、学習者の自律性、有能性、関係性という基本的心理欲求の充足が自律的動機づけの向上に寄与することが実証された。

第6章では、第2章から第5章までの研究結果を第1章で提示した課題の観点から考察し、動機づけ尺度や学習方略尺度の開発と、ポートフォリオや対話を取り入れた実践を通して、自律的動機づけの向上と学習方略使用の促進を確認し、1人1台端末の活用が自律性・有能感・関係性の欲求を満ちし、学習意欲を高める可能性を見いだしたことを本研究の成果として論じた。また、学習方略と動機づけの相互作用、ICTを用いた振り返りの効果、社会認識の深化との関連など、今後の検討課題も見いだした。これらの成果は、社会科における主体的・協働的な学びを支える理論的基盤を提供し、今後の教材開発や教育実践の発展に寄与すると考えられる。

2) 審査経過

(1) 研究目的と論文構成の整合性について

本論文は、中学校社会科教育において、自律的な学習者の育成という今日のかつ重要な教育課題に対し、自己調整学習理論を基盤として、学習動機づけおよび学習方略の観点から実践的・実証的に検討することを研究目的としている。研究方法の選択は、研究目的に照らして概ね適切であり、質問紙調査、因子分析、相関分析、重回帰分析等を用いた統計的検討は、妥当な手続きに基づいて行われている。

第1章において社会科教育における自己調整学習研究の現状と課題を整理した上で、第2章から第5章にかけて、学習動機づけ尺度および学習方略尺度の開発、それらを用いた複数の授業実践と分析、第6章における総括と展望へと論理的に構成されており、研究目的と論文全体の構成との間には高い整合性が認められる。さらに、各章は個別の研究として完結しているだけでなく、尺度開発から教育実践、統合的考察へと段階的に深化する構造を有しており、研究の進展過程が明確に示されている点も、本論文の構成上の長所として評価できる。

(2) 独創性と発展性について

本論文の独創性は、自己調整学習研究を社会科教育という教科固有の文脈に位置づけ、自己決定理論に基づく学習動機づけと学習方略という二つの観点から体系的に検討した点に認められる。とりわけ、社会科の授業実践に即した学習動機づけ尺度および学習方略尺度を新たに開発し、複数の実践研究を通して、社会科教育における自己調整学習の有効性を実証的に検討した点は、先行研究に対して明確な独自性を有している。

加えて、本研究は自己調整学習理論を単に適用することとどまらず、社会科の学習内容や学習活動の特質に即して再構成している点に独創性があり、理論と実践を媒介する研究として今後の関連研究の基盤となる可能性を有している。また、ポートフォリオや1人1台端末を活用した協働的学習といった現代的教育実践を理論的枠組みと結びつけ、自律性・有能性・関係性といった基本的心理欲求の視点から分析した点は、社会科教育研究のみならず、学校教育学全体においても発展的な意義を有する成果であると評価できる。得られた知見は、他教科や今後の探究的・協働的な学習環境の設計にも応用可能であり、研究の発展性は高い。

(3) 学校教育実践への貢献について

本論文は、理論的検討にとどまらず、学校現場における具体的な教育実践に基づいて検討が行われており、学校教育実践への実質的な貢献が認められる。特に、学習者の学習動機づけや学習方略の使用を高めるための授業構成、ポートフォリオの活用方法、協働的学習およびICT活用の具体像が、現場教員にとって参照可能な形で提示されている点は、高く評価できる。

また、本研究で示された実践の枠組みや支援の視点は、特定の学校条件に依存するものではなく、再現可能性を有しており、授業改善や校内研修をはじめとする学校教育の諸場面においても活用可能な知見である。さらに、学習者の自律性・有能性・関係性といった心理的側面に着目し、それらを支援する授業設計の重要性を実証的に示している点は、今後の学校教育における授業改善やカリキュラム開発に対して有益な示唆を与えるものである。本研究で示された知見は、社会科教育に限らず、他教科や学校全体の教育実践においても活用可能であり、学校教育の質的向上に資するものである。

3) 審査結果

以上により、本審査委員会は 福谷 泰斗 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。